

日本共産党杉並区議会議員

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2022. 6. 9 NO. 345

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話 080-5531-8236

区議会控室 3312-2111(内)2319 FAX 3312-2610



補助132号線計画（西荻地域の道路拡幅）中止を求める陳情

6千筆の署名を与党会派が不採択に・・・

住民の陳情を3年間放置 党区議団が審査を再開

5月31日の区議会都市環境委員会（共産・富田たく委員長、野垣あきこ委員）で、西荻の道路拡幅問題や阿佐谷駅北東地区再開発に関わる重大な陳情が審査されました。

いずれの陳情も歴代の都市環境委員長（公明・自民・公明）が審査しなかったため、3年間塩漬けにされていたものです。

今年度は党区議団が委員長を務めることになり、一気に審査を再開させました。

陳情者の補足説明では、2019年に陳情を出したのにも関わらず、3年以上も塩漬けにした区議会への怒りの声が出されました。

立ち退きを迫られる住民 切実な思いを訴える

補助132号線（西荻の道路拡幅）の計画中止を求める陳情



用地買収が開始され、一部空き地となった道路計画予定地。

審査では、6140名の署名が集まったことが報告され「なぜ、道路を拡げる必要があるのか？」等の切実な声が紹介されました。

公明党の北あきのり委員は、「道路計画があることが分かっている住んでいる。長く住むことで離れがなくなる」と等と、まるで、計画用地に暮らす住民に責任があるかのように発言しました。

多くの都市計画道路は、戦災復興として1947年に都市計画決定されたものですが、大日本帝国憲法下の旧法に基づいたもので、住民意見の聴取等の手続きは一切実施していません。現在、住宅街として形成されている地域に、行政が一方的に道路整備を事業化し、大規模な立ち退きを迫ることに道理はありません。

日本共産党は採択を主張 住民の願いに背を向けた議員の 責任が問われる

陳情に対する賛否で、日本共産党の野垣区議は、莫大な税金投入の問題を指摘し（下表）、6千筆を超える住民の思いを受け止め、採択を主張しました。自民、公明、立無等の与党会派は、「道路拡幅は必要」として不採択を主張。賛成少数で不採択となりました。6140名からの陳情を無視した議員の責任が厳しく問われます。

都市計画道路補助132号線事業用地	
土地売買代金	2億8546万円余
移転補償費等	5億9872万円余
合計	8億8418万円余
※道路用地として8億8千万円以上を投入	

お困りごと・ご相談は、お気軽に上記連絡先まで、お電話ください

住民の切実な陳情を放置する杉並区議会・・・

日本共産党が委員長を務め、審査率100%達成

区民生活委員会で徹底審査 今年度は都市環境委員会

杉並区議会では、住民が区議会に提出した陳情の審査率が極めて低く、問題になっています。

陳情審査の判断は委員長に委ねられますが、歴代委員長の多くが、ほぼ審査せず放置「塩漬け」しています。審査されない陳情は、議員任期終了時に審議未了・廃案となります。

日本共産党区議団は委員長が交代する度に、速やかな陳情審査を求め続けてきました。しかし、状況が改善せず、前年度今議員任期が折り返しに入った段階で、党区議団が常任委員会委員長を務め、徹底審査を実施することを決断。前年度は区民生活委員会委員長を務め、全ての陳情を審査し、審査率100%を実現。今年度は都市環境委員会委員長を務め、積極的な審査を開始しています（表面）。

無責任な姿勢は許されない

都市環境委員会で3年間放置された陳情を審査した際、北委員（公明）が「今後、審査を委員長に求めたい」と発言。しかし、歴代委員長は公明・自民の会派が担っており、当時、陳情審

査を求めたのにも関わらず、公明委員長が拒絶した経緯があります。極めて無責任な姿勢です。

さらに、山本議員（立無）は「陳情の願意を充たしたいのであれば、内容を変えて出し直すべきだった」とも発言。陳情審査せず3年間も塩漬けにした杉並区議会の議員として極めて問題のある発言です。

今後、会派の違いを超えて、全ての議員が速やかな陳情審査への努力を尽くすべきです。

杉並区議会の陳情審査状況

■令和2年度末（令和3年3月31日時点）

総数	審査数	未審査	審査率
97	11	86	11.3%

■令和3年度末（令和4年3月31日時点）

総数	審査数	未審査	審査率
130	27	103	20.8%



今年度も、私は、区議会で文教委員の担当となりました。前号でご報告した通り、1日に行われた委員会では、学校給食費保護者負担の引き下げを求めてきた党区議団の要求にたいし、教育委員会として区の担当部署に交付金活用を要請したと重要な答弁を引き出すことができました。

また、生理用品の学校トイレへの配備についても、これまでよりは若干ですが前向きな姿勢が見られました。一步ずつですが、日本共産党区議団の論戦が区を動かしてきています。引き続き頑張ります。